

かぎりあるしげんを大切に

聖心女子学院初等科

四年ゆり組 米本 薫子

私は、いつも習い事の前や後に近くにある  
ウォーターサーバーで水とうに水を足してい  
ます。それが当たり前で、足したのに飲まず  
にすててしまうこともよくありました。私は  
(べつに、水なんかたくさんあるし、すてても  
も問題ないよね)と思っ、ていました。

しかし、<sup>中</sup>業で、安全な水(飲める水)

が水道から出てくる国は、日本、ノルウェー、  
アイスランド、アイルランド、オーストリア、  
オランダ、デンマーク、フィンランド、スイ  
ツ、南アフリカのわずかな国しかないと思  
りました。たまたま日本に生まれて、たまた  
ま日本がきれいな水を作れる国だったとい  
うことも知りませんでした。私は、水をすててもいい  
と思っ、ていた自分をなさげなく感じました。  
このままではいけないと思い、母に相談し  
てみました。母は、

「毎回満タンまで入れないで必要な分だけ、時には半分くらいにしたり、飲まなかっただ水を夕食時に飲んだりしたらどうかな。」と、てい案をしてくれました。その通りにして見たら、すてる水が少しへった気がしました。

しかしそれだけでは、水をむだにしている量はまだ多いと考えました。そこで、一日にどのくらい水を使っているか回数を数えてみました。顔を洗う、朝ごはんを食べる、歯を

みがく、へチマに水やりをするなど、全部で二十八回も水を使っていました。フギに、その中から使う水をもっとへらす工夫を考えてみました。例えば、なるべくシャワーを流したままです使わずに、お風呂のお湯をくんで、体やかみの毛を洗うことや、歯をみがく時ト歯みがキコップに先に水をくんでおくことなどです。早速やってみたら思ったよりもかんとんに実行できました。

調べてみると、今はトイレ一回でザリット

ルの牛にゆうパック約十本分、せんとく機一回では、一リットルの牛にゆうパックで約百十本分も水を使うそうです。それにくらべて昔は、トイレで流す時に水は使わず、せんとくは、たらいを使い、一リットルの牛にゆうパックで約六十本分しか水を使わなかったそうです。今は、べん利な物が発明されているけれども、水をたくさん使うものが多いと感じました。私達は、水洗トイレやせんとく機がないところまで、てしまいます。あるていど水を使うことはさけられないと思います。でも使う水の量を少しでもへらせるように、一人一人が工夫することが大切だと思います。水は、かぎりあるしげんです。使いすぎたり、よごしすぎたりしたら、安全な水がへてしまい、足りなくなってしまう。だからこそ、じゃ口をひねれば安全な水が出てくる幸せに感しゃし、少しでもむだにしないでしまう水がへるように、工夫をすることが大切だと思います。

かぎりあるしげんである水。感し々の心と  
むだにしない心で、これからも水を大切に使  
っていきたいです。